

【第16回年次大会 基調講演 要旨】

ミンゾク学で解くジェンダー社会ニホン

中牧弘允

1. はじめに

(ア) ミンゾク学：民族学、民俗学

(イ) ニホン：「外国」との区別を意識させる「日本」を相対化・希薄化

(ウ) ジェンダー：gender conscious な縄文研究は希有

2. 縄文時代のジェンダー社会

(ア) 縄文時代の人びと

① ツチグモ、クズ、クマソ、コシ、エミシ（ヒラ、ヒナ、シナ、アイヌ）、キ（紀伊、隠岐、壱岐、伯耆、安芸、讃岐など）、アマ（宗像、住吉、隼人）⇒ヒナザカル（越の枕詞）、アマザカル（鄙の枕詞）⇒クニツカミ

② 血縁社会（clan、氏族、ハラカラ）>地縁社会（ムラ）

1. 妻間いと土産

2. 生んだ子供は自分の子→土偶は元母（上田篤）

「わが子はすべてよい子」（河合隼雄のいう母性原理）

cf. 「よい子だけがわが子」（河合隼雄のいう父性原理）

3. 男は大動物狩り（グレート・ハンティング）で憂さ晴らし

オオクニヌシの抱きかかえた「赤いイノシシ」=焼いた大石（上田）

4. イザナミは火の神を生んで死に、黄泉比良坂の奥の黄泉の国に帰還→ヒラ（族）の奥のエミシの国（上田）

(イ) 火の神

① 竪穴住居は風雨から火をまもる家屋=「種火の保存所」、祭祀は主婦（上田）

② 燃やし続けることが心を包み込む家=イエの力（小林達雄）

(ウ) 日の神

① 環状集落とミシヤクジ神信仰

1. 古樹の下の石棒など

2. 天候観測、太陽観測⇒女の役割

② 環状列石、方形木柱列、環状木柱列：二至二分の観測（小林達雄、太田原潤）：男の柱建て、女の石拾い（上田）

③ オオヒルメ=アマテラス=日の女=日の妻（折口信夫）

1. 天皇家の元母はアマテラス（上田）

2. ミカドは髪を長く伸ばし化粧をしていた→ミカドの肖像（猪瀬直樹）

3. 擬制的母系制=天皇を本家とする分家の制度（上田）

(エ) 母系制社会？

① イザナミがリードした社会 > イザナキがリードする社会（上田）

② 基本的に核家族で一夫一婦制。男性上位社会（小山修三）

(オ) 縄文ファッション

(カ) 比較：アマゾンのマディハ（民族）社会、とくに女性の集团的喧嘩

### 3. 縄文遺制

(ア) 縄文的生活の遺制

- ① 山 (>) 海民 (上田) : 山の幸と海の幸⇒お節料理、ノシアワビ
- ② セリ、ワラビ、ゼンマイ、クズ、ドングリ、サトイモ、キノコ、アユ、ハマグリ、タイ、シカ、イノシシ、カモ、キジ
- ③ 茅葺き屋根、土座ずまい、囲炉裏
- ④ (土) 鍋料理。匂をたのしむ「初物食い」、メニューのない旅館や高級料理屋
- ⑤ 縄文語はオーストロネシア語が基本。Teman は配偶者、伴の意味 (崎山理)
- ⑥ 注連縄、横綱
- ⑦ 漆器→japan
- ⑧ 装飾品、身体装飾 (刺青)
- ⑨ 山の神は本地であって、田の神は垂迹である (小林)  
山の神は女性、妻であって、田の神は両性 (男女一対) である

(イ) 日の神祭祀の遺制

- ① 観天望気の日和見
  1. ヒヨリミビト、ヒジリ (聖)
  2. 女主人 (刀自)
  3. 推古天皇:「太陽ができれば仕事を止めてあとは弟にまかせる」(随書東夷伝倭国)  
→二至二分と匂を見る→清涼殿は東面→日祀部、日置部
  4. 初日の出やご来光
  5. 南面する日本の家屋

(ウ) 母系制社会 (?) の遺制

- ① ツマドイ=婚い: 呼びあう→夜這い
  1. 家と子どもと里をまもった女性たち
  2. 農閑期に男たちは妻問いをした
  3. 飛騨白川郷の大家族制
- ② 男はグレート・ハンティングに従事
  1. 亭主元気で留守がいい

(エ) 双系的社会ニホン

- ① 霊友会系の教団で普及した双系的先祖祭祀 (総戒名)
- ② 主婦が管理する給料←江戸時代の「奥」方←刀自
- ③ 制度は父系制でも社会は母系制 (上田)
- ④ キリスト教は父性原理がつよく、日本の仏像は柔和で女性的である (上田)

(なかまき ひろちか・国立民族学博物館名誉教授・吹田市立博物館館長)

[目次に戻る](#)